



酒田市立第一中学校 旧校歌

作詞 堀内敬三
作曲 井上武士

鳥海のみね 雲はれて
春庄内の 野はみどり
若く命の もえざる中に
われらいそしむ このまなびや
酒田第一中学校

5月 宮海付近から
鳥海は海より出でて雲を抜く日本海から立ち上がる標高2,236m
日本有数の名山である。

いりん 倫

第3号

令和2年8月

酒田市立第一中学校卒業生
昭和40年1期
同業組合

二人の斎藤君のこと

白川 修

3年1組には男子に4人の斎藤君がいました。俊雄(トンチ)君、誠(ダンビ)君、三郎君、義男君ですね。このうちの2人の思い出を書きます。昭和48年に大洋漁業に入社し、配属されたのは三浦半島の突先にあるマグロ漁業の基地、三浦三崎でした。大型母船がトロール船の希望がかなわず小さなマグロ船の担当で少し気落ちしていたころ、誠君に連絡しました。

曇倫2号の山木君提供の写真と一緒に写っているのが誠君と同じ三浦半島の観音崎観光ホテルでコックの見習いをしていることは知っていたのだと思います。多分入社してすぐの頃、観音崎のホテルの前の公園で誠君と会いました。

ちよっと汚れたコック服を着て、中学生の時よりは少し大人の顔をして、でも素振りには昔と同じでした。あの頃の観音崎の海は高度成長の影響でヘドロの泡が沸いていて、酒田の海とは全然違うな、というようなことを話したのかもしれない。それ以来、酒田に帰った時も一度も誠君に会った記憶はないのです。



6月 田植え直後
3年1組の教室からいつもぼーっと見とれていた。

信じられない出来事

平澤 隆志

私は高校卒業とともに、福助株式会社に入社した。仙台勤務だった。好きな仕事かそうでないかは当時の自分の年齢では判断がつかなかったが、そこでは貴重な体験と素敵な友人を得た。福助入社してから、6年たってから東京出張がよくあった。その時の偶然などというよりは奇跡に近い経験をした。

福助の東京支店は飯田橋と小伝馬町の二カ所があり、その時は小伝馬町に行ったときだ。朝一番の特急。当時はまだ新幹線がなかった。で仙台をたち、十一時頃に東京支店に向かって交差点を渡って歩いていた。その時だ。すれ違った若い人に肩

と肩がぶつかってしまったのだ。

「なんだーこいつ!」という顔でお互いの目が合った。そして、お互い信じられないような顔に変わり、交差点の途中で手をとりあって「平澤」「横山」と叫んでいた。こんなことがあるのかとビックリしたというより夢かと思った。夢じゃないよな?横山、覚えてるよな。お昼に近くで一緒に珈琲タイムもした。福助は十年勤めて退社して今の職種に就いた。

一昨年の正月に「世界一といわれた映画館」を観に行ったとき鳥居塚さんと映画館でばったり会ったとか。横山はそういう何かをもっているのかや。それとも一中、酒商卒業生は何かもっているのかや? 一中、酒商卒業生といえば、小野順司は元気にしているのかな?我が家に泊まりに来た唯一の同級生。随分ご無沙汰してるな。



アフリカ沖でのカニ漁船の操業です。
毎日ロープでつながった大きなかごを1000個も海から引き揚げて私も、義男君もカニを獲っていました。

ねたら、「酒はやめらんね」と言って去ってゆきました。今年になって、何とか連絡を取りたいと思い立って会社の船員保険の台帳なんかを調べてもらったのですが、記録が見当たらないのです。まるで「風の又三郎」みたいです。

コロナに負けるな! 今こそ上を向いて。

また皆さんの近況をお聞かせ下さい。お待ちしております。